

# 自信をもってはきはき応答する子

— 作業学習の指導を通して —

出 脇 典 子

## 1. 対象児のプロフィール

生徒名 T・O (男) 昭和45年5月18日生 (高等部1年) IQ 38 (WISC)

昭和51年6月より精薄通園施設 (若草学園) に通園。本校小学部・中学部に入学、卒業し、現在に至る。ダウン症候群。

### (1) 一般的特性

喜怒哀楽の感情を素直に表現する反面コントロールが未熟で、言動が気分左右されやすい。言語不明瞭だが人なつこく、人とかかわりを積極的にもとうとする。体が柔らかいリズム感に恵まれ、音楽に合わせて上手に踊る。器用という程ではないがぬり絵や切り絵などのように手先を使う活動を好み、じっくり取り組める。数や文字の理解に劣り、劣等意識が強い。

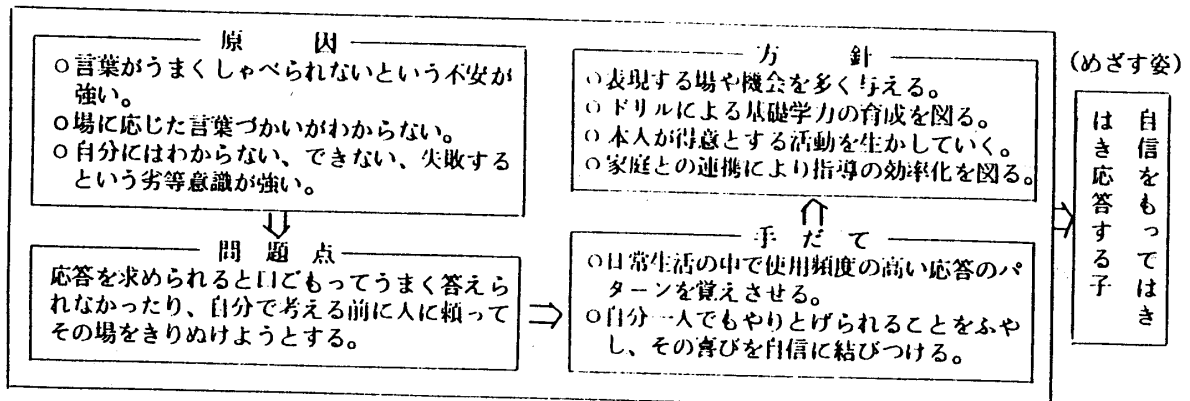
### (2) 問題点と研究に取り上げた理由

リラックスした雰囲気の中では自分の意思を積極的に表現しようとするが、改まって質問されたり人前に立ったりすると、おどおどして言葉がスムーズに出なかったり、自分で応答の方法を考える前に人に頼ってしまう傾向が強い。T・Oのもつ障害の特性から、言語面のハンディはある程度認めなければならないが、場に応じた言葉づかいの方法がわかり、自分にも人と同じようにできることがあるという自信をもてば、緊張場面に出会っても自分自身で切りぬけていくたくましさがあるのではないかと考え、研究として取り上げた。

## 2. 個人目標の設定と研究方法

### (1) 個人目標の設定

1の(2)に記す問題点から、T・Oの目標を「自信をもってはきはき応答する子」と設定し、次のような考え方に基づいてアプローチすることにした。



## (2) 研究方法

T・Oは陶芸班に所属して作業学習をしている。テーマに迫る指導の場はいろいろあるが、ここでは、手先を使ってこつこつ取り組むことを好むというT・Oの特性が生かしやすい。作業の種類や内容が多岐にわたり、T・Oの能力に応じた学習がさせやすい。作業学習として週当たり9時間設定してあるため、指導の経過や変容の実態が確認しやすい。といった利点から、作業学習に力点をおいて取り組むことにした。自分が作った作品を商品として販売し、大勢の人の生活に役立ててもらおうという一連の学習を通して、喜びや充実感を与え、自分にもできるという自信をもたせること。また、製作の過程における応答の訓練や実際の販売を通して、はきはきと応答する態度や技能を高めることを意図しての取り組みである。

## 3. 授業の構成と指導上の配慮

11月23日には学習発表会があり、同時に作業学習で製作した作品の即売会も計画されている。その即売会で販売することを目標にして、6月より11月まではしおきの製作に取り組ませた。

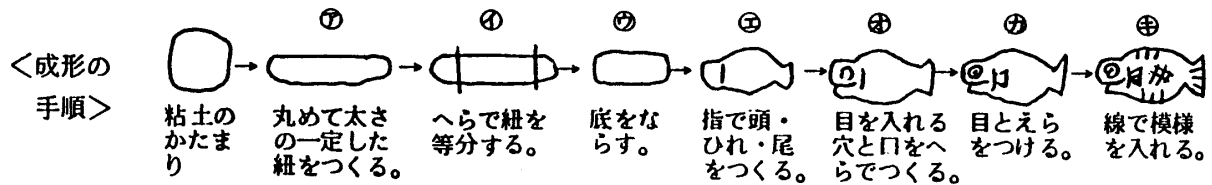
はしおきは製作してから販売するまでに成形→素焼き→みがき→釉薬かけ→木焼き→整理→販売練習→販売という工程や手順を経る。このうち特に成形、販売のための製品の整理と販売練習に重点をおいて、授業を次のように構成した。

作業内容	時期	お ら い	学 習 活 動	指 導 上 の 配 慮
はしおきの成形	6月 ～ 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し取り組むことにより成形の手順や要領を覚え、しだいに製品としての条件にかなう作品を作ることができる喜びを味わわせる。</li> <li>○成形の作業を通して必要な返事、あいさつ、報告の仕方を覚えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手順や要領を覚え、はしおきを作る。慣れるに従い製品としての条件を少しずつ意識し、形や大きさのそろったものを能率よく作る。</li> <li>○目標や反省の仕方を習い、毎時間繰り返す。例、「きょうは、はしおきを20個つくります。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し時間をかけて、自然に手順や要領を覚えさせるようにする。</li> <li>○形に変化や工夫がみられた時は大いに賞讃し、意欲と自信をもたせる。</li> <li>○返事や報告など、型を覚えるまで示範をまねさせる。</li> </ul>
製品の整理	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○台紙にはしおきを貼る要領を覚えて正確に作業し、自分の作品が販売されるという期待をもたせる。</li> <li>○必ず決められた言葉を言わなければ作業がすすめられないようにしておき、場に応じた言葉のパターンを覚えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○台紙にはしおきを貼る手順を覚え、能率的に整理していく。</li> <li>○はしおきを下さい。穴をあけて下さい。できました。次のを下さい。という言葉のパターンを覚え、はっきりと言う。</li> <li>○やり方がわからない場合や、失敗した時の応答を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いよいよ販売が近いことを話し、作業への意欲を高めるようにする。</li> <li>○はしおきを台紙に貼る要領がわからないと言葉がはっきり出てこないことが予想されるので、作業の要領を早く、正確に覚えさせるようにする。</li> </ul>
販売練習	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の作品が販売されるといふ期待を充分味わわせる。</li> <li>○販売するために、売り手として好ましい態度や言葉づかいをしっかりと練習して身につけておかねばならないことがわかる。</li> <li>○はきはきした言葉や態度で客の応対をしようとする意欲をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お客様を迎えたつもりで元気よく、はきはきと対応する練習をする。</li> <li>○販売する商品の名まえをできるだけ正確に覚えて言う。</li> <li>○いらっしゃい。買って下さい。みんなで作りました。ありがとうございました。という言葉をはっきりと言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○期待を充分抱かせるための雰囲気づくりに努める。しかしけじめのない浮わついた学習にならないようにし、必要な言葉など、繰り返し練習させ、確実に言えるようにさせる。そうすることで、安心して本番を迎えさせるようにする。</li> </ul>

#### 4. 授業実践例

##### 実践1 成形の指導を通して

成形は次のような手順で行い、6月から11月にかけて30時間程度取り組んだ。その間に技能面、態度面で認められた実態は以下の通りである。

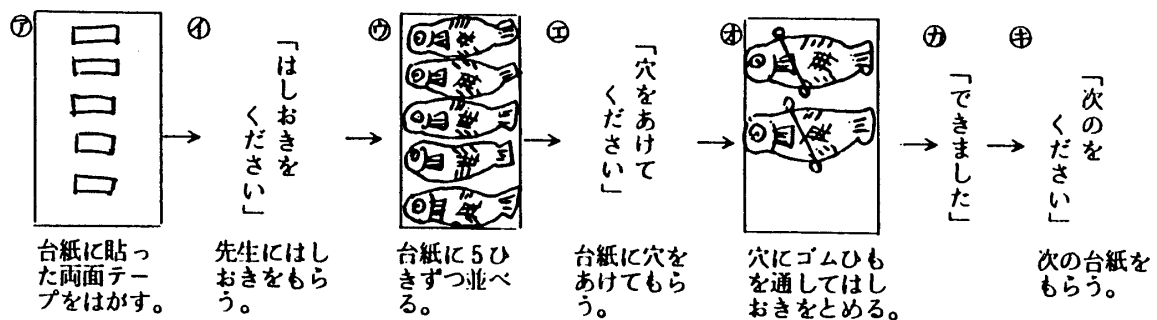


##### ＜技能面、態度面で認められた実態＞

時期	技能面での実態	態度面での実態
6月	①から⑧までの手順を一通り覚え、魚の形に仕上げることができる。が、細かい部分のしまつはほとんどできない。③④の要領が未熟な上、必要以上に手の上で粘土をこねまわすため、大きさが一定しなかったり形がくずれたりする。へらを逆に持つが器用に扱う。	こつこつと取り組むが意欲的でなく、よそ見やあくびがめだつ。勝手に壺づくりをすることもあったが、手順を覚えるに従い集中して取り組むようになる。 粘土を下さい。ほくは〇〇を作ります。ほくは〇〇を頑張ります。等の言い方を覚えて正しく使う。
9月	①では均等な太さで30センチの紐ができる。④では自分の指や最初に切った一本を基準にして紐を等分する方法に気づく。これにより大きさのばらつきが少なくなる。⑥で目とえらの位置関係が正しくつかめ、形がよくなる。頭部の粘土の厚さが不十分で、荒い。	3時間ぶっ通して作業する。問われる前に「黙ってはおきを作ります」と言う。一つ仕上げる度に「これでいいですか」「どうでしょうか」と評価を求め、自信をもってきたことを感じさせる。しかし、全般に動作が遅く、能率という面での意識は低い。
11月	⑤で粘土を引っ張る要領をつかむ。⑥で粘土の途中で模様を止める要領をつかみ、えら、尾、背に入れる模様が安定する。形、大きさが比較的そろい、しかも良い作品が仕上がる。しかし、⑧が省略されるうえ、⑧の口のつけ方も今一つ要領がつかめない。	自分が作ったはしおきと友だちのものが区別できる。「ほくのは売れるでしょうか」と気にする。「このはしおきの良いところは〇〇です。悪いところは〇〇です」の言い方を覚え、作品の良否が少しは判別できるようになる。

##### 実践2 製品の整理の指導を通して

はしおきの整理は次のような要領で行い、11月に8時間取り組んだ。



この作業を通して認められた実態は、以下の通りである。

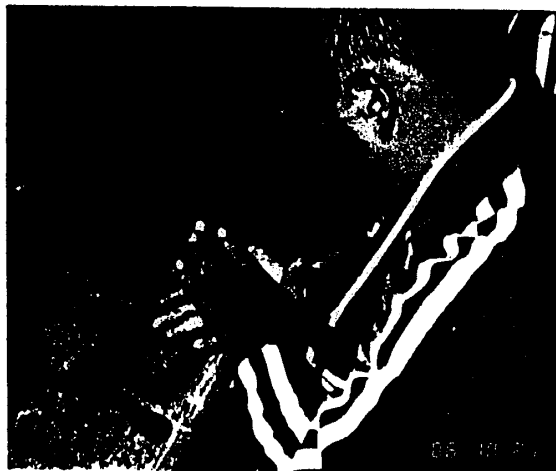
- ① 手順④でつまずきがみられ、ここで「あれえ」「できん」というT・O特有のすがりつくような声が聞かれた。そこでわからない時はどうするのがよいか考えさせ、「わかりません」「教えて下さい」ということを覚えさせた。④で「ゴムは背中から出して腹に入れる」と、具体的に場所を示す言葉を用いて説明すると要領をつかみ、一人で作業をすすめた。

- ② ④の要領をつかむのに合わせて、④の言葉が非常にスムーズに言えるようになり、友だちより早く次の仕事を手にしたいという気持ち、弾んだ声の調子で伝わってきた。
- ③ 特に自分の作ったはしおきを手にすると、「ぼくが作ったのだ」といかにうれしそうにながめ、「お母ちゃんに買ってもらいます。」など、夢をふくらませての作業であった。

### 実践3 販売練習の指導を通して

販売練習は、はしおき以外の販売用作品も入れて行い、客には教官2名があたった。T・Oは次のような取り組みをみせた。

- ① 販売作品の中にはT・Oにとって言いまわしにくい名前のも（例、はしおき、ぐいのみ、植木鉢、どんぶり等）があったが、下を向いてもじもじすることはなく、繰り返し練習してそれらしく聞こえる言い方ができるまでになった。
- ② 「いらっしゃい」「買って下さい」「これはみんなが作りました」「ありがとうございました」など、いずれも客に対して適当な応答をはきはきとすることができ、即売会への期待が大きいことをひしひしと感ずることができた。



## 5. 考察と今後の課題

即売会当日、T・Oは大勢の客を前にしてももじもじしたり、教師に頼ろうとすることは全くなく、はきはきと応対して商品の販売にあたった。人とのかかわりをもつことを好むという性格に助けられている面はあろうが、なつかしい教生の先生や顔見知りのお母さん方を相手にしても、いつものようにのぼせることなく落ち着いて接しているのを見るかぎり、やはり、長い時間かけてじっくり取り組んできたという自信に支えられた態度であるように思われる。

T・Oの特性を生かしたはしおきの製作、販売を通して、自分にもできるという自信を与え、場のぞんではきはきと応答しようとする意欲や態度を育てるという試みは、まちがっていなかったように思う。この成果をもとにさらに、型ぬきや自動彫刻機による製作にも取り組ませ、作る喜びを味わわせ自信を高めたい。また、作業学習のみならず生活全般においても、繰り返し取り組むことで基礎的な学力や技能を身につけ、たくましく生きる力の土台をしっかりと固めるようにしたい。

劣等意識を除去し、安定した心の状態で生活させることの意義は今さら言うまでもないが、それに



よって本人の言葉の問題がすべて改善されるものではない。言葉は自ら話すことや正しい言葉づかいや発音を聞くことで身につけていくものである。本人が話したいという欲求を引き起こすような場面を多く工夫すると共に、日常のさり気ない会話を通して、応答の方法を自然に身につけるよう、いっそう心がけていきたいと思う。